

理科（6 学年）シラバス

1. 教科の目標

- ・生物の体のつくりと働き及び生物と環境とを関係付けながら調べ、見いだした問題を多面的に追及する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生物の体の働き及び生物と環境とのかわりについての見方や考え方を養う。
- ・水溶液、物の燃焼、電磁石の変化や働きをその要因と関係付けながら調べ、見出した問題を多面的に追求したりものづくりをしたりする活動を通して、物の性質や働きについての見方や考え方を養う。
- ・土地のつくりと変化の様子を自然災害などと関係付けながら調べ、見いだした問題を多面的に追及する活動を通して、土地のつくりと変化のきまりについての見方や考え方を養う。

2. 到達目標

観点	自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理
目標	自然現象を意欲的に追求し、生命を尊重するとともに、見いだした決まりを生活に当てはめてみようとする。	自然現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、多面的に追求し、相互関係や規則性をとらえ、問題を解決する。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に表現する。	生物は互いに類似した体のつくりと働きをもち環境とかかわって生きていることや、物に外から条件を加えると物の性質や働きが変わること、土地のつくりと変化にはきまりがある事などを理解している。

3. 年間指導計画

月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
4	わたしたちの地球	豊かな自然が残されている場所にはさまざまな生物がすんでいることを知り、生物がどのようにくらしているかをとらえることができるようにする。 ヒトは自然や環境とどのようにかかわって生きているかに興味・関心をもち、空気、水、ヒト以外の生物とのかわりについて考えることができるようにする。
5	ものが燃えるとき	物の燃焼と空気の性質や組成の変化を関係づけ、物が燃えるしくみを考えることができるようにする。 燃焼後の空気の变化を見通しをもって調べることができるようにする。 酸素には物を燃やすはたらきがあり、物が燃えると空気中の酸素が使われて、二酸化炭素ができることをとらえられるようにする。
6	ヒトや動物の体	ヒトや動物の体について、資料を活用して、呼吸、消化、血液の循環にかかわる体内の各器官のつくりとはたらきをとらえることができるようにする。 呼吸によってとり入れている気体や、食物のゆくえなどについて推論することができるようにする。 ヒトやヒト以外の動物の養分のとり方と、植物の養分のとり方を比較し、食物を通してのかかわりを見い出すことができるようにする。
7	生物とかんきょう	日光に当たった葉と当てなかった葉を比較し、でんぷんができる条件を見い出すことができるようにする。 生物と水とのかわり方を考えることができるようにする。 ヒトや動物の呼吸と植物との関係を見い出すことができるようにする。 生物が周囲の環境に影響を受けて生きていることから、生物が互にかかわり合って生きていることをとらえることができるようにする。
	自然を守る仕組み	自然を守るためにどんな取り組みが行われているかを調べ、自分に何ができるかを考え、進んで取り組もうとする。
9	水よう液の性質	実験や資料などから水溶液が金属を変化させることについて多面的に追求し、金属が水溶液によって、質的に変化していることをとらえることができるようにする。 実験を通して、水溶液には気体や固体が溶けている物があり、酸性・中性・アルカリ性に分けられることをとらえることができるようにする。
10	大地をさぐる	大地の構成物や大地のでき方について、資料や地層の観察からとらえられるようにする。 大地の構成物や地層の観察から、そこが流れる水のはたらきでできたところか、火山のはたらきでできたところかを推論できるようにする。
11	大地の変化	大地は地震や火山の噴火などによって変化することをとらえ、自然災害と関係づけながら大地の変化について調べることができるようにする。
12	自然災害に備えよう	火山の噴火や地震などの自然災害に備えてどんな取り組みが行われているかを調べ、自分に何ができるかを考え、進んで取り組もうとする。
1	電磁石のはたらき	電磁石のしくみやはたらきを実験を通してとらえることができるようにする。 電磁石のはたらきの変化を、電流の強さや導線の巻き数などと関連つけて多面的に調べ、電流のはたらきについてとらえられるようにする。
2		身のまわりで電磁石が利用されている物を調べ、電磁石を利用した物作りができるようにする。
3	自然とともに生きる	ヒトと水、空気及び植物とのかわり方を関係づけてとらえることができるようにする。
	希望を持って未来へ	これまでの学習内容や情報をもとにして、自然界のつながりを多面的に考えることができるようにする。

4. 評価の観点・方法

- ・次のような方法で評価します。
発言内容 ノートのまとめ方 プリント テスト 学習態度 実験の様子 研究内容 活動の様子

5. 保護者の皆様へ

6年生は、身の回りの自然的な事物とヒトとのつながりについて学習します。ノートに学習したことを条件に注意しながらまとめさせていきます。時々、ノートをご覧になって子どもの学習ぶりを見て頂けると幸いです。